

こぶし1つ分。

集めれば大きなごみに。

ごみは、ごみ置き場に出せば見えなくなります。しかし、その先には運ぶ人がいて、燃やす場所があり、お金がかかります。その中身とお金の行き先をたどります。

糸満市で出るごみは、会社や飲食店から出るごみより、私たちの暮らしから出るごみの方が多い、その割合は約63%にのぼります。そのごみは、1年間に約2万トンを超え、1日あたり約55トとなり。10トトラック約5台が毎日まちを走っている計算になります。

では、家庭から出るごみの中身は何でしょうか。

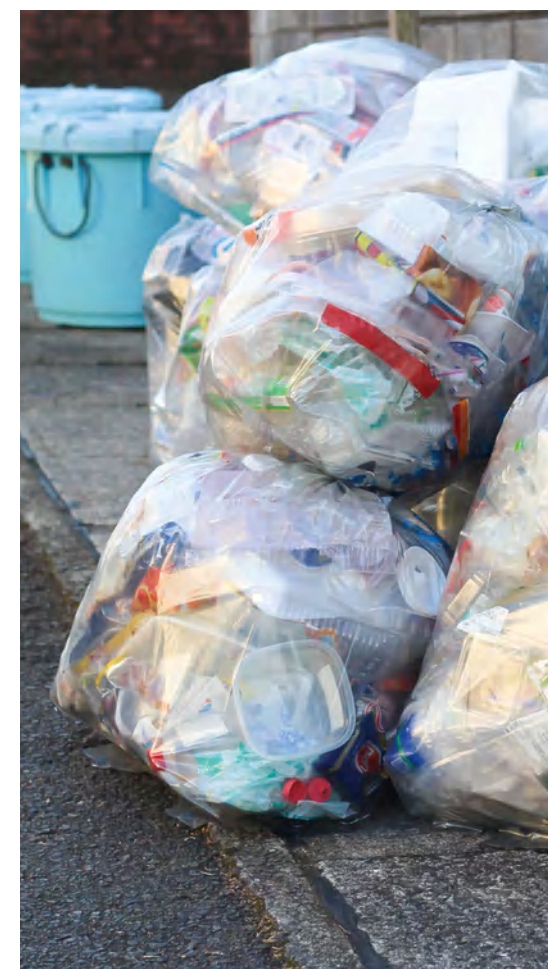
昨年度、糸満市の家庭から出たごみは、燃やせるごみが88%、資源ごみが7%、燃やせないごみが3%、粗大ごみが2%です。ここで、沖縄県の平均と比較す

ると、燃やせるごみが78%、資源ごみが15%となっており、糸満市は燃やせるごみに大きく偏っていることがわかります。さらに、糸満市のリサイクル率は12.5%となっており、県平均15.3%、全国平均19.3%を下回り、資源として生まれ変わるはずのものが、燃やされていることがわかります。

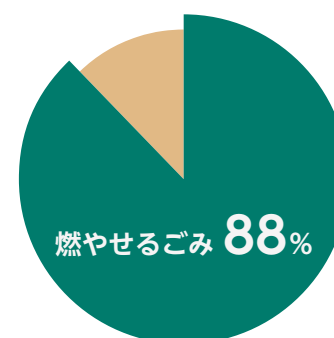
そして、燃やせるごみの30%から40%を占めるのが生ごみです。生ごみは、その80%が水分であり、つまり、私たちは水分を燃やしており、水分で重くなった生ごみに余計な燃料を

使っていることになります。さらに、夏場の水分を含んだ生ごみは、虫の発生やごみ置き場の悪臭といった悩みにもつながります。

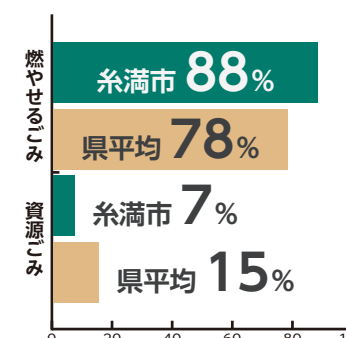
しかし、このような問題を簡単に改善する方法があります。それは、シンクの三角コーナーで一絞りを。それだけで生ごみは約10%軽くなり、臭いも同時に減ることで、虫が発生しにくくなります。そして、絞ることによって減る重さは、約こぶし1つ分の110グラム。あなたも、台所の少しの間でごみの減量に取り組んでみませんか。



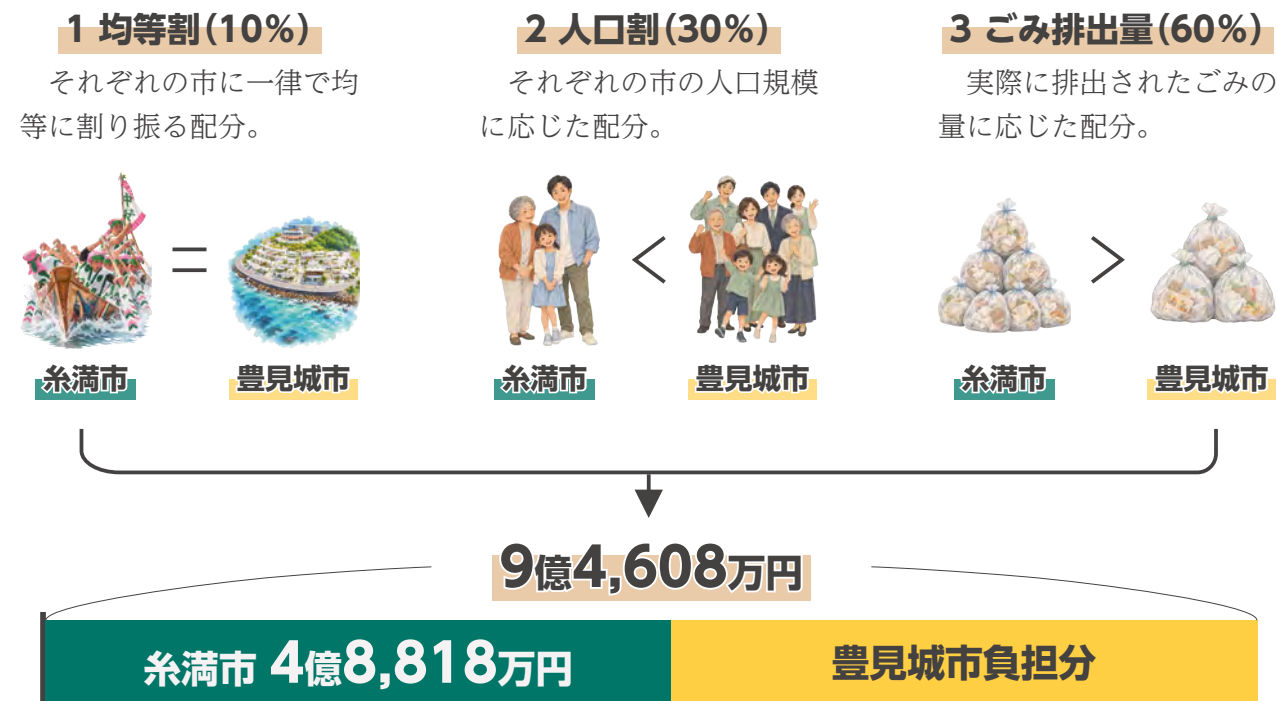
糸満市の家庭から出るごみの内訳



燃やせるごみと資源ごみの糸満市と沖縄県平均の比較



糸満市と豊見城市がごみ処理の負担金を決める方法



この負担金の計算方法は、ごみ排出量が大多数を占めているため、**ごみを減らすことは、負担金を減らすことに直結**します。

ごみの行き先と減らすべき負担金

糸満市で集めたごみは、市が委託した業者が収集・運搬し、「糸豊環境美化センター」で処理されています。このセンターは、糸満市と豊見城市がそれぞれ負担金を出し合って運営していますが、皆さんはその額を知っていますか。

令和6年度、糸満市が支払った負担金は4億8818万円です。



糸満市長 当銘 真栄

私たちが暮らす糸満市は、青い海と豊かな緑に囲まれた素晴らしいまちです。しかし、日々の生活から出されるごみの処理や環境保全は、糸満市の大きな課題となっています。ごみ削減や丁寧な分別は、

す。糸満市が支払った負担金の額を市民1人あたりに直すと、年間約7900円、4人家族なら1世帯の年間の支払額は3万円を超えます。この負担金は6割がごみの量で決まることになっており、ごみを減らすことは、そのまま負担金を減らすことにつながります。そして、その減らした負担金を、皆さんの暮らしを支える事業へ使うことができるのです。

美しい自然を守るだけでなく、処理にかかる財政的な負担を軽くすることにつながり、子育てや福祉など、本当に必要な未来の施策へと税金を生かす大きな力になります。

「もったいない」という心を大切に、今日からできる工夫をご家族や地域と一緒に始めてみませんか。美しく持続可能なふるさと糸満を次の世代へ。ともにつないでいきましょう。